

## 生徒指導あれこれ



愛知淑徳高校教員生活指導部長

天野 一雄

久しぶりに近くの公園を歩き、木々の紅葉を眺めた。そんな時、つい季節を忘れてる自分に気付き、立ち止まり考えたくなる。

淑徳の生徒は総じて学習意欲も高く、しつめの行き届いた家庭の子女が多い。しかし今の立場にいと、校務分掌でいえば生活指導部だが、いい生徒ばかりといつてはいられない節もある。つい最近も数学の

教員が嘆いていた。「プリントも持ってこない授業に参加しない生徒がいる」「点が悪くても平気な生徒がいる」。そんな嘆きを聞いた後、何かで注意するために2人の生徒を呼んだことがあった。その生徒も、授業についていけない」ともらしていたが、その時私が一番気になったのはこの生徒たちが連れてこられた職員室で、椅子に腰掛け、談笑していたことだった。

同じ頃、生徒同士のちよつとした争いがあった。最近の女子は元気がいい。しかし一方で気に入らないとすぐ言葉がきつくなる。要するに感情の出し方が幼い。しかし人間は互いにぶつかり合うことで成長するのだらう。そうだとすれば、これは大切なことにちがいない。できるなら、もう少し早くからこれが体験できるといいのだが。

ただこの場合、喧嘩両成敗の喻え通り、生徒を呼び教員の見解を述べ、二心の決着を付けた。2人は握手して仲良く部屋を出て行ったが、最近では生徒まかせでは友人

関係の修復がうまく行かないことが多い。そこで今回の仲介に2人の教員が付き添うた。短時間ではあったがひどく緊張した。

後から反省文なるものを書かせたがなかなかよくできた文章であった。このことで自分の姿が客観化でき、互いに心のやり取りができそうな感じがした。親御さんも随分心配されたようだ。人間はつづられていくものである。その年頃に見合うしつけや教育が必要だが、不足する所はその場でつくるうしかなない。

このところ台風や地震など災害が続き、心配している職員が多い。昨年10月の台風23号の時、朝礼後、生徒を二斉に下校させたが、星ヶ丘駅周辺は大変な混雑だららしい。駅丘周辺の方から「通行できない」との苦情を受けた。どうしたらよいか、他校の指導部の教員に話したら、緊急の際、その学校では教員が近くの駅の整理にあたるという。早速、生活指導部会議で簡単に説明し、淑徳でも災

害時、数人で地下鉄の入口に赴き、整理にあたるついうことになった。

それにしても台風23号の直後に地震が起きる等、気になることが多い。新潟中越地震は夕方起きたが、あれが授業中だったらどういふ状況になるのだろうか。

災害時、最前線に立つのは決まらずに教員だ。日常からの対策と準備が大切であると改めて思う。

以上、最近の職場の話題を感じたまま書いて、ふと思いついたことがある。教員になると決まった若い頃、私の頭をかすめた心配事だ。

小学校の頃か、どこかで感じた先生の顔。無表情でそして決まり文句を繰り返すあの顔。「あの顔にいつか自分もなるのではなにか」と私が言った時、母はただ笑っていた。生徒のことをいつも語り合い、手を尽くしている淑徳中高の教員は、あの顔には無縁だ。